パンタナール通信

南北米福地開発協会　会報　２００９年２月１日　６５号

パンタナールの一月の空（パノラマ）

レダ報告（二〇〇九年一月十三日）

パンタナールの一月の空は、夏の雲が千変万化の様態を示して、青い大空に夢のパノラマを繰り広げています。（雨期だというのに今年は、三箇日に降って以来、十日も日照りが続き、四十℃前後の情熱の太陽に草花や木々の成長は著しいものがあります。アセロラの赤い実もさる十月に実を収穫しましたが、既に一月半ば次の実が色鮮やかにその愛らしい玉を輝かせ、人にも小鳥たちにも歓迎されています。スイカも十月に種蒔きし、ポット苗として育て十一月に第一農場に移植し、一月十日初めての収穫をしました。直径３０ｃｍほどの見事な実りに一同汗を流した後の試食に大喜びでした。

飯野事務総長より

アセロラの赤い実が色鮮やかに

スイカを試食するレダスタッフ

飯野先生報告の続き

以前、支流に架けた第三の橋が凄まじい水圧に流され、牛も人も奥地に行くことが出来ずにいましたが、九月から突貫工事が始まり、中田先生、上山先生の奮闘で、大変な土木工事をこなし、十二月中旬見事に開通しました。この橋（長さ十二m、幅十m、高さ一・七m）は従来の位置より四十m程手前の地盤のしっかりした所に選び、九十度に運河を掘るようにして水圧を下げるよう工夫され、合わせて従来の位置にも、高さ二mx幅一・五mの水路を作り橋を架け、これは第四の橋と名付けられました。正に奥地へ通じ、広大な雨期の牧草地へと結ばれ、牛達にとっても、希望の橋となりました。

植樹活動でニームの森を作ろうというキャンペーンが、NPO法人「地球の緑を守る会」と共同で展開して来ましたが、既に四百本以上申し込まれた方々の植樹がなされ、その看板が設置されました。まだ八月から始まった植樹の為、木そのものは大きくはありませんが、ニームはレダに合っているという実証済みの樹木ゆえ、第五農園は五〇〇〇本を計画して進めていますので、いずれ立派な森に成長していくことは間違いないでしょう。

写真は第五農園の現場と、既に第二農園で育っているニームの木々の前でイメージ写真として看板を立て撮影（写真6）してみました。

現在大滝さん、大山さんによって毎日川の水位が計測されていますが、測り易いように水位測定盤が海軍警備所下流の三段階の給水ポンプぐち配置台の前面に大滝、飯野によって作られ設置されました。これからはその都度糸を垂らして図らなくても、目盛を見れば正に一目瞭然正確に分かります。

・新年インタビュー（大滝氏による）

牧童頭マリオ　コルネール氏（四十二歳）に聞く

マリオ氏は日陽園開設当初からと牧童頭として従事している労働者です。

家　族：妻と三人の息子達（日陽園内居住）

牧童になった動機：家庭が貧しく小さい時から働いた。長い間牧童として働いている

・仕事の感想：牧童は大変危険な仕事で一瞬の気の緩みも許されないがやりがい仕事でもある

・牛は基本的に優しい動物だ、しかし時には野生的本性を発揮する怖いところもある

尊敬する人：以前八年間一緒に働いた先輩の牧童

・今年の抱負：中田所長と相談し新しい草場を開拓したい

奥様へ一言：世界一有難く大切で愛する人である

後列左からマリオ氏・奥様レナさん・息子さん他二人の息子は働いておりここには不在

他の四人は奥様の妹の家族

十二月二十日（土）午後三時、今年最後の上りのアキダバンがやって来ました。客と荷物を満載た上、エンジンの故障で他の船に押してもらいながらあえぐように入港しました。通常とは一日半の遅れです。暑いので甲板にテントを張って　います。短い停泊時間中に、大勢の人々が競　うようにレダの清水を汲み、大和田先生は三　週間分の食材を買い込みました。↓

今朝七時十五分ころ、小雨が降りました。東の空の雲の切れ目から太陽がいつものまぶしい光を放ち始めました。するとくっきりとした虹が公館の上に懸かりました。アーチも完璧な鍋弦で、二重に懸かっています。日陽園の虹は今まで幾度か見ましたが、こんな荘厳な虹はめったに顕れるものではありません。

（十二月二十三日小田記）

荷降ろしをする大滝氏

第八回ピースライフセミナー（一月十七―十八日）報告

研修会は森に囲まれた、川崎市のセミナー室で行われました。参加者は十歳の小学生から、七十歳に手の届く方まで六十名を超える方で盛況でした。

はじめに、北日本ブロックの齋藤俊樹さんから、主催者を代表して、「レダ開発も十年目を前にさらに飛躍発展の契機となれるようにこの二日間を過ごして下さい」と挨拶がありました。

講師を担当したのは、柴沼邦彦・事務局長で、「人間の目的」「人間の価値」についての話から、さらには、歴史問題から現代の生き方に至る、広範囲な分野にわたる講義が行われました。

今回のセミナーは青年が多く参加し、若いエネルギーが充満するものとなりました。

NPO地球の緑を守る会の高津啓洋・理事長が「パンタナールの開発と保全」として、地球環境を守り植樹をすることの重要性を話されました。

二日目は、櫻井設雄・副会長の講話と柴沼事務局長の「南北米福地開発協会の歩み」が語られました。

参加者の感想を掲載します。

「地球にはこんなに美しい物があって大事にしたいと思いました。二日間、いろいろなことを教えてもらってよかったです。ニームとかさばくのかんそうに強くて、モリンガもさばくとかんそうにつよくてCO2と光合成で吸って、酸素を出すから地球温暖化をなるべくストップをして自然を守ろうと思います。次回ももっとおしえてください。日本でもモリンガとか、ニームとか植えられるのかな」東京・（十歳）

「今回の講義は、本当にわかりやすく、短時間でいろいろ分かりやすい例を交えていただいて、本当に良かったと思います。休憩や開始終了時間も丁度良く、無理なく、リラックスして受けることができました。プログラムにない自己紹介や、歌を歌ってくれたりと、楽しい時を過ごしました。また、いろいろな方との出会いも、驚きと感動でした。こんな余裕のある、心のリラックスするけれども内容は濃い、こんなセミナーがもっとあればいいと思います。また、最後の「南北米福地」のコマで、コツコツと、目に見えない形であったとしても、人のために努力すすということは、とても大事で、それは、必ず実のるというのがとても印象に残りました。」神奈川・三十四歳

南北米福地開発協会二月度の予定

環境セミナー

二月二十二日、南北米事務局
午後二時より
（費用　二千円資料代含む）

南北米福地開発協会　事務局

〒二一三―〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三―十一―十五
岩崎ビル四F

電話　〇四四―八二九―二八二一
Fax　八二九―二八二〇
会費納入　郵便口座
一〇一八　〇―七七六八〇四七一
代表　柴沼邦彦

E-MAIL　office@asd-nsa.jp
ホームページ　http://www.asd-nsa.jp